

五十河地域まちづくり計画

地域資源を活かしみんなの力を結集してふるさとを再生しよう！



小野小町ブロンズ像（五十河）



駒返し滝（延利）



城ヶ越清水公園（明田）



久住バイパス（久住）



内山山系から流れる新宮川（新宮）

平成26年3月

五十河地域（五十河・延利・明田・久住・新宮）

五十河地域まちづくり計画

1. 提案名

「子や孫に地域の誇りを伝えます。」

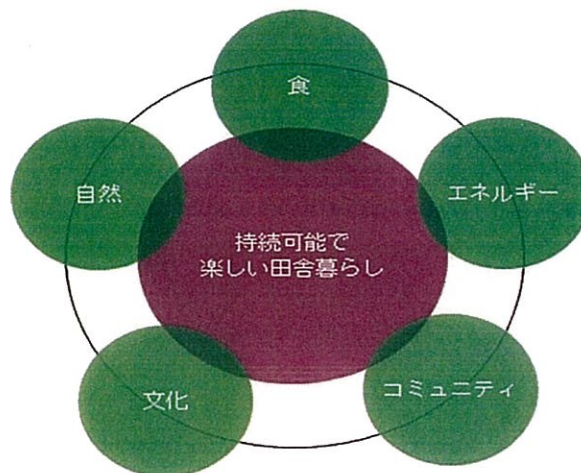
「子供たちに残す田舎づくり」

「持続可能で楽しい田舎暮らし」

2. 事業のねらい

- ・ 農業経営を通じて、里力を再生します。
- ・ お互いに助け合い、地域が一体となる取組を推し進めます。
- ・ 未活用の資源、既存施設を活用します。

- ・ 田舎でこそ実現可能な食、自然、エネルギー、文化、コミュニティの持続可能性を高める。各要素の持続可能性を高め、有機的なつながりを持たせることで、地域特有の商品やサービスを生み出す。持続的な経済活動をつくり、雇用の場をつくり、持続可能な楽しい田舎暮らしを実現する。
- ・ 地域住民(参加者)自身が楽しみ、充実感を味わう。
 - 本気で取組み、楽しむ大人たちを見て、子供たちも同様に楽しみ、田舎が好きになる。
 - 楽しみながら、ゆっくりとではあるが確実に積み重なっていく事業を継続する。※「好きなことやって、そこそこ儲けて、楽しい田舎をつくる」
- ・ 人材の発掘及び育成を進める。



3. 提案の背景

(ア) 地域全体の課題

- ・ 少子高齢化
- ・ 地場産業の衰退、雇用の減少
- ・ 地域コミュニティの衰退
子育て世代や会社勤めの方が地域活動へ参加するための時間を確保しにくくなっている。
また、生活文化が多様に変化する中で、地域特有の生活文化の継承が危うい。
- ・ 既存施設の活用(民家苑、基幹集落センターなど)
- ・ 自然環境の維持(里山の手入れ、耕作放棄地の増加、獣害被害の対策など)

(イ) 活動組織の課題

- ・ 組織の機能強化(役割分担)、労力の確保
- ・ 商品、サービスの多様性、品質の継続的向上
- ・ 販売チャネル、営業力、広告宣伝の強化
- ・ 人材の発掘及び育成
- ・ 課題を抽出、共有化、深堀し、解決に向けて目標を設定し、取組み、活動を振り返るとい
う一連の流れを継続的な実施

(ウ) SWOT(スウオット)分析

SWOTとは、強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)のことで、それぞれの頭文字をとってSWOT(スウオット)と言います。以下、地域全体及び活動組織についてのSWOT分析です。

内部環境	強み	弱み
	<ul style="list-style-type: none">・ 自然環境・ 既存施設・ 地域住民の参加意識、一体感・ 人的ネットワークの蓄積・ 技術力	<ul style="list-style-type: none">・ ブランド力、認知度の向上・ 商品、サービスの多様性、品質の向上・ 販売チャネルが不足・ 営業力、広告宣伝が弱い・ 実施体制が未構築、マンパワーの確保・ 立地条件が悪い
外部環境	機会	脅威
	<ul style="list-style-type: none">・ インターネット環境の充実・ 地域活性化に対する社会的注目・ 都市部での田舎に対するニーズの高まり	<ul style="list-style-type: none">・ 他地域での取組みが盛んになっている。

4. 取組の目標

前述で地域の課題について触れましたが、これらの課題は複雑で根深く、早急に解決し得るものではないと思います。課題の解決には、年数と継続的な努力が必要です。一番の課題は、「出来ないと諦める気持ち」であると思います。ゆっくりとではあるが確実に課題解決に向けて、積み重なっていく事業形成を目標に置き、これからの取組を検討しました。

(ア) 主要テーマと主な取組

生活環境や生産基盤の整備・保全

- ・農作業の共同化
- ・公共インフラ（道路整備、農業用水、下水道）の整備

産業・雇用の創出

- ・田舎暮らしの研究、体験を核とした事業 ※季楽里、民家苑を利用
- ・地域のバイオマス資源を活用した堆肥等の生産、販売事業
- ・資源の自給率を高めた農産物生産、加工事業

自然環境の保全・育成

- ・遊休農地の活用（アマゴ、ドジョウの養殖池、ビオトープづくり）
- ・地域住民、都市住民参加型の里山保全活動
- ・里山や河川を利用した散策道、公園等の設置

少子高齢化・人口流出の対策

- ・定住者への住居（空民家など）の斡旋、相談窓口設置

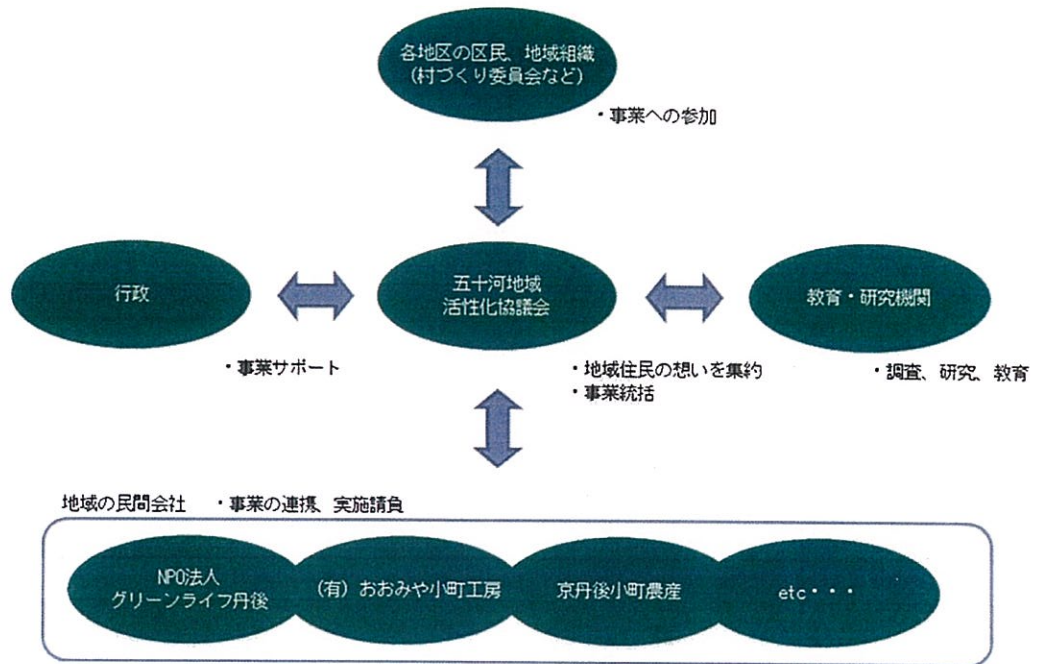
福祉対策

- ・総合福祉施設の設置（地域住民が集う場所をつくる）※基幹集落センターを利用
- ・農産物等の加工を中心とした授産施設を設置

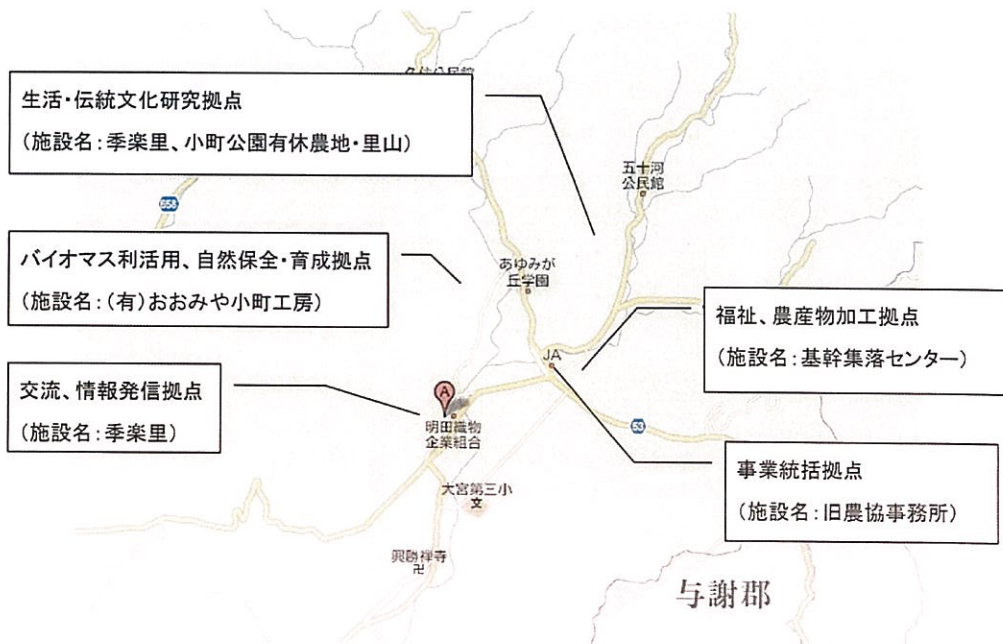
生活文化・伝統文化の継承

- ・文化の記録（映像化、文書化）し、ギャラリー展示

(イ) 地域の連携イメージ図



(ウ) 地域内の活動拠点イメージ



(工) 各取組の詳細

各取組の緊急度と重要度を踏まえながら、優先順位を決め、詳細を詰めていく。

- ・ 実施主体、体制
- ・ 目標
- ・ 内容
- ・ スケジュール
- ・ 予算

以上

五十河地域まちづくり計画の体系



各集落の悩み

- 同じ旧村でありながら過疎・高齢化で集落間格差が生じてきた。
- 集落の共同活動や伝統行事を行うことが難しくなってきた。
- おいしい水や空気、農産物、農産品加工・体験施設などの地域資源が有効に活用したい。
- 元気で活力ある地域を取り戻したい。



5集落の旧五十河村で集落間連携しよう!



地域まちづくり計画の策定

事務 NPO法人グリーンライフ丹後 支援






地域資源活用計画

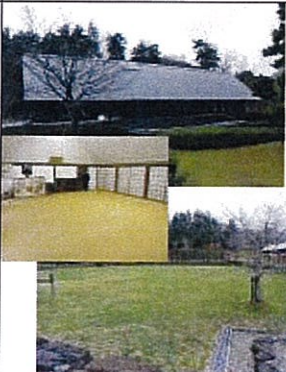
【子や孫に地域の誇りを伝えます。】


◎事業のねらい


- ・農業経営を通じて、里力を再生します。
- ・お互いに助け合い、地域が一体となる取り組みを推し進めます。
- ・未活用の資源、既存施設を活用します。

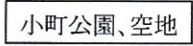
分類	場所（元イメージ）	活用計画
交流 拠点		—古民家を再生して創られた田舎暮らし体験工房。竹炭の活用や竹塩など商品開発を行っているが、さらに外の情報と内の情報が交わることのできる、簡易宿泊も兼ねた地域スタジオとなる。
		—地域の「ちょっと困った」を解決する定年後のクラブトマンたちが集う工房として機能する。地域資源を活用した作品を展示するギャラリーとする。
名称	小町工房_季楽里	付帯機能
機能	—ギャラリー、スタジオ	—簡易宿所、事務所、石窯


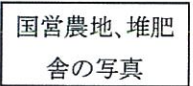
分類	場所（元イメージ）	活用計画
福祉 拠点		—元小学校で五十河地域中心に位置し、大宮市街、与謝野町、弥栄町など周辺地域からのアクセス条件も良いことから、地域活動の中核施設として改めて位置づける。
		—お年よりから子どもまで常に人がいて賑わっている状態を作る。現校庭での農園づくりを通じて、知恵の伝授や住民同士の絆を深める居心地の良い場所とする。
名称	基幹集落センター	付帯機能
機能	—総合福祉施設	—福祉農園(100m ²)、福祉プラザ(自治会事務所)、診療所、風呂場、講堂、駐車場(12台程度)


分類	場所（元イメージ）	活用計画
観光拠点		<p>—小野小町の終焉の地としての伝説を伝える観光施設。</p> <p>—団体客、一般観光客向けに屋外イベントを行ったり、催事を執り行う中心施設とする。</p> <p>—目標（利用率）を数値化した上で40畳ある部屋を研修、会議、催事等に活用する。</p>
名称	小町公園	付帯機能
機能	—観光施設	—研修室、お食事処（蕎麦）、屋外イベントスペース

分類	場所（元イメージ）	活用計画
観光拠点		<p>—6haの敷地内に無農薬果樹園、薬草畑、菜園、棚田、桜、もみじ植樹</p> <p>—養殖池等を配し、200年前にタイムスリップした感覚になれる農的生活体験空間を演出する。</p> <p>—古民家3棟のうち2棟を遠地より五十河地域へお越しいただく方向けの限定ゲストハウスとする。</p> <p>—1棟はライブの練習場、製作物個展会場等多目的利用</p>
名称	民家苑	付帯機能
機能	—体験観光施設、暮らし文化研究施設	—管理棟、ゲストハウス、露天風呂、菜園等、音響設備 バイオトイレ、炊事棟、エコ発電設備

分類	場所（元イメージ）	活用計画
自然環境		<p>—内山ブナ林、近隣自然環境を保全するための山小屋。</p> <p>—エコツーリズム発信基地として、特に、先祖が守り伝えてきた有形無形の価値（自然を活かす知恵、畏敬の念など）を、体験を通じて未来の子どもたちへ伝える活動の場として活用する。</p>
名称	内山ブナハウス	付帯機能

分類	場所（元イメージ）	活用計画
農作業場 加工施設		一五十河地域の小町公園の明るく開放的な立地。他の農業関連施設からのアクセスが良いため農作業場、加工施設とする。同時に地域が一体となって取り組めるよう授産施設として位置づけ、雇用を創出する。
名称	共同作業場	付帯機能
機能	一授産施設、加工所（調整、製粉、乾燥、包装）	一駐車場（30台程度）

分類	場所（元イメージ）	活用計画
生産環境	 	一田として利用するには不向きな山間の遊休農地をアマゴ、どじょうの養殖を行う池として活用する。 一上記は限りなく自然に近いビオトープとして鳥類や貝類等、様々な生き物たちの多様性を生み出す。 一国営開発農地は、オリジナル堆肥を施用するなど生産方法から抜本的に見直し、畑としての機能を最大限活用していく。 一子どもたちへの環境教育、自然（野外）教育、食育、ならびに職育にも活用。
名称	遊休農地	付帯機能
機能	一農地、養殖池	堆肥加工施設

分類	場所（元イメージ）	活用計画
生産管理施設		一集落営農の集約事務、都市農村交流のための調査等を行いながら、精米、野菜等の宅配など地域農業のニーズに即した事業経営を行うための建屋として活用する。 一倉庫、土蔵を資材保管場所として活用する。
名称	元農協延利支店	付帯機能
機能	一事務所、営業拠点	一管理事務施設、インキュベーション施設、精米施設、資材保管施設

機能	一登山客休憩所	休憩所、トイレ
----	---------	---------